

統計研修講義計画書

研修課程	統計基本課程 調査設計の基本	講義科目	標本調査法	講義時間	7コマ
講師	石原 秀男 総務省統計研究研修所研究開発課長				

※1コマ70分

講義のねらい

標本調査法は公的統計の多くの統計調査で用いられている方法である。本科目では、標本調査を企画・設計したり、標本調査の結果数値を適切に利用したりする際に、実務家が理解しておく必要のある標本調査の理論と実務に関する知識を身につけるようにしてもらう。なお、推定値の精度の求め方及び標本の大きさの決め方に関しては、講義の中で例題や練習問題を通じた知識の定着を行う。

指導項目と内容

指導項目	内 容
1 序論	○「序論」では、まず、全数調査と標本調査の特徴、標本調査の意義について説明する。次いで、標本調査法を理解する上で必要となる基礎的用語、標本調査の事務の流れについて説明する。
2 標本抽出法の理論	○「標本抽出法の理論」では、まず、無作為抽出法で用いられる基礎的な用語について説明する。次いで、実務でよく使われている主な無作為抽出法を取り上げ、その特徴等について説明する。また、推定値の精度の求め方、平均値及び比率の推定を行う場合の標本の大きさの決め方について説明する。
3 標本調査の実務	○「標本調査の実務」では、標本設計を行う場合の主な留意点について説明する。

講義形態 指導方法	講義はパワーポイント資料等を用いて行う。
受講に必要な 基礎知識等	高校数学の知識、数式を EXCEL で表現する技能